令和３年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより

2021.5
VOL.
58

ご挨拶

コロナ禍にあっても皆様と繋がり，子どもを真ん中に据えた実践的な研究をともに深めていきたいという思いから，「令和２年度夏の実践研修会『見方・考え方』祭り」及び「令和２年度研究発表会」をオンラインで開催しましたところ，全国各地から両会ともに６５０名を超える方々に事前登録をしていただき，誠にありがとうございました。アンケートやメール等を通じて，ご意見や温かな励ましのお言葉を賜り，心から感謝申し上げます。

また，熊本県内各地域の教科等研究会をはじめ，各学校の校内研修や研究発表会にお声かけをいただき，対面やオンラインで本校教員が研究実践をご紹介する機会にも多く恵まれました。この度，本校の取組についてさらにご存知いただき，皆様との実践交流を一層密に図るため，本校の授業実践の一端をホームページ上で動画配信することといたしました。ご高覧いただければ幸甚です。

新型コロナウイルス感染症が１日も早く収束し，皆様と一堂に会し，実際の子どもの姿を通して授業づくりについて熱く語らうことを願ってやみませんが，全国的な感染状況を踏まえ，本年度の「夏の実践研修会」につきましては，昨年度同様オンラインで開催することといたしました。研究発表会につきましては，開催形式等について改めてご案内させていただきます。ぜひ多くの方々にご参加いただき，忌憚のないご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校　校長　森　毎恵

夏の実践研修会のご案内

期　　日　令和３年８月19日（木）１３：００～１６：５５

内　　容　各教科等の授業づくり Web セミナー（予定）
①全体会
「きいてみよう！今求められる指導に生かす評価とは？」
②教科別授業づくりセミナー
「基礎から学べる教科等別セミナー（全教科等対応）」

申し込み　参加費は**無料**。
Web にて受付を行っています。右記の QR コードから本校ホームページにある申込フォームをご覧ください。

申し込み〆切　令和３年８月 17 日（火）

※ 天候、感染症等により、開催に関する変更がある場合は、本校 HP 等にてお知らせいたします。

後援　熊本県教育委員会
熊本市教育委員会

令和３年度 研究発表会のご案内

2日間 開催！

期　　日　令和４年２月18日（金）
２月19日（土）

全体会講師　京都大学 准教授　石井英真 先生

附属小学校の実践が本になりました！

「粘り強くともに学ぶ子どもを育てる」

― 教材と深く対話する「教科する」授業の理論と実践 ―

○ 京都大学の石井英真先生がこれから求められる授業について解説
○ 石井先生の全面監修のもと主体的・対話的で深い学びを具現化した実践の数々
○ 全教科等・全授業の実践に「見方・考え方」を働かせる子どもの姿を明記

書店等で好評発売中！

附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ
続々登場!!

● **授業研究最前線**
臨場感あふれる各教科の取り組みを随時更新します。

● **実践・研究ブログ**
校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。

©2010熊本県くまモン

ホームページ
https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp　熊大附属小　検索

研修会・講師に関するお問い合わせ先

校内研修や研究会の講師として本校教員をお考えの際は，電話か次のアドレスにお問い合わせ下さい。

sinoue@educ.kumamoto-u.ac.jp
（教頭　井上伸円）

熊本大学教育学部附属小学校　研究だより VOL.58
発　行　日　令和３年５月 24 日
編集・発行　熊本大学教育学部附属小学校　〒 860-0081 熊本市中央区京町本丁 5-12　TEL 096（356）2492　FAX 096（356）2499

教 科 等 研 究 紹 介

「学び」を探究し続ける熊本附属の挑戦にご期待ください!!

研究部長　大林　将呉

今年１月に中央教育審議会より「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」が出され，これから実現すべき「令和の日本型学校教育の姿」として「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」が示されました。

そこでは，「子供の興味・関心等に応じ，子供自身が学習が最適となるよう調整すること」や，「多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育成すること」が重要とされています。本校ではかねてより，「子どもたちの興味・関心，生活経験，素朴概念に基づく教材や単元の開発」と「『豊かな対話』を授業の中核に据えた協働的な学び」について研究を進めてきました。その研究は，これから求められる学びの姿に直結するものと考えています。

そして昨年度は，このような学びを実現するため，「学習評価を生かした指導方法」について研究を深めました。その結果，各教科等の特質に応じた学習評価の在り方と，それを生かした指導方法の工夫が具体的な実践を基に見えてきました。今後はさらに，ICT の活用やカリキュラムマネジメントの視点を効果的に取り入れ，「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体となった学びの様子を研究発表会等で発信していこうと考えています。

その研究発表会について，昨年度本校では初めてオンラインでの研究発表会を行いました。コロナ禍においても，我々教師の学びを止めないための苦肉の策でしたが，授業を収録して配信するという方法は参加者の先生方から意外にも高評価を得ました。

それは主に

①単元の入り口から出口まで全ての取組を見ることができる

②ペアやグループにおける対話の様子がはっきりと分かる

③教材に対する授業者の意図が明確に伝わる

というものでした。これらの評価は，本校職員の「粘り強く協働的に学ぶ子どもの姿を見て欲しい」「これからの学びに欠かせない新たな教材を提案したい」という思いが動画に表れていた結果だと考えています。今年度は，この経験を生かして積極的に動画配信を行っていく予定です。手軽に見ることができる１５分以内の動画となっておりますので，校内研修や各教科等の研修等にご自由にご活用いただければ幸いです。

国語科

自ら学習材に働きかけ，意味の創造へと向かう姿を目指して

溝上　剛道　／　田邊　友弥　／　松村　宗尚

５年「大造じいさんとガン」では，言語活動『プロフェッショナル－大造の流儀』を設定し，番組制作者の立場で問いを追究する文脈を創りました。個々に問いを解決する中で「大造にとっての『ひきょうなやり方』とは？」に対する考えの違いから対話が生じ，一人一人が言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動を再考していきました。

本校国語科では「よりよく創り上げたい」と思える言語活動の開発と，活動を通して生じる「納得いかない」「解決できない」等の困り事を生かす対話の手立てを中心として，子ども自ら学習材に働きかけて問いを見いだし，その解決過程で自分なりの意味を創りだしていく姿を目指します。

社会科

子どもが社会とかかわり続ける姿を目指して

定松　良彰　／　村上　春樹　／　山田　壽彦

３年「火事からくらしを守る」において，火事被害を減らすための啓発物を作成する文脈の中で，熊本市が火災時に出動しない機能別団員を設置した意味に迫りました。子どもたちは，消防士の話や資料を基に対話を通して相互関係的な見方を働かせ，「出動しなくても，自分の役割を果たせば，火事被害の減少につながる」ことに気付きました。

本校社会科では，当たり前のように暮らしている社会生活を見つめ直し，社会の一員としての自覚をもってかかわり続ける子どもの育成を目指しています。今年度は，自ら社会的事象に立ち止まって問いをもち，社会とかかわり続ける子どもの姿を目指した授業づくりを提案します。

算数科

自ら「数学的」に探究する子どもたちを目指して

枝川　晃久　／　宮本　浩彰

２年「はこの形」において，子どもたちは「正四角柱以外に正方形が含まれる直方体はないのか」という問いをもちました。それから，正方形や長方形の色板を並べたり，組み立てたりしながら，新たな直方体が存在するかどうかをとことん探究する姿が見られました。その結果，そのような箱の形は存在しないということを，構成要素に着目しながら，操作と論理によって明らかにしていきました。

本校算数科では，内容だけでなく，問題発見や日常場面の数学化も含めた課題解決の過程を振り返り，数学を探究する価値や喜びを実感しながら，自ら見いだした問いや思いを基に自ら学びを進めていく授業を提案します。

理科

子どもが自分事として問題解決に没入する姿を目指して

松山　明道　／　牛嶋　克宏

４年「私たちの体と運動」では，人工筋肉を使って骨格模型を立たせるという単元のゴールを設定しました。骨のどこに筋肉をつなげば立たせることができるか考える中で，「人と同じように，斜めに筋肉をつけるとしっかりと固定できる」といった人の体のつくりと骨格模型を重ねて考えを深める姿が見られました。子どもたちは，生物学者の文脈を辿りながら，問題をみんなで解決していきました。

本校理科では，単元構成を工夫し，観察，実験を自ら計画，実施していく中で，科学者や技術者が辿る文脈を追体験できるようにしていきます。グループでの学習を進めながら，一人一人が追究に没入していく学びを提案します。

生活科

繰り返し対象に関わり気付きの質が高まっていく子どもを目指して

坂口　静磨

１年「みんなで飼おう！ヤギの親子」で，学級でヤギの飼育活動を行った子どもたち。「ヤギと一緒にお散歩したい」という思いの実現に向け，繰り返しヤギの親子に関わっていく中で，それぞれのヤギの特徴の違いに気付いていきました。さらに，ヤギの親子が安心するように，自分自身のヤギへの関わり方を見直していく姿が見られました。

本校生活科では，子どもが繰り返し対象に関わっていく中で，「試す，見通す，工夫する」等の創造的に考える活動が生み出されていく手立てを探っていきます。そして，体験活動と表現活動を往還する学びの中で，気付きの質が高まっていく姿を目指します。

音楽科

自ら音楽表現の追求へ向かう子どもを目指して

中島　千晴　／　上原　正士

昨年の５年生「熊本民謡『おてもやん』」の実践では，グループでのお囃子づくりと実演に挑戦しました。分担して考えた平太鼓，締太鼓，鐘の３つの鳴り物パートを合わせる中で，「平太鼓のリズムの隙間に鐘が入ると，豊かで愉快な『おてもやん』らしさが出せそう」といった気付きを出し合い，自分たちが感じた「おてもやん」のよさと関連づけながらお囃子を繰り返し調整し直す姿が見られました。

本校音楽科では，このように子どもたちが表したいものを明らかにしながら，その表現方法についてグループで試行錯誤する中で，粘り強く音楽表現を追求していく授業を提案していきます。

図画工作科

自分なりに新しい見方や感じ方をつくりだす子どもの姿を求めて

毎床　栄一郎

２年生「石と遊ぼう」（造形遊び）を実践しました。多様な形の石を思いのままに並べたり積み上げたり，友達とともに形や色について話し合ったりすることを通して，多様な造形物をつくりだしていくことができました。表現と鑑賞を往還する造形的な創造活動の中で，対象とかかわり，友達との対話を通して，自分なりの意味や価値をつくりだす学びの過程を辿る子どもの姿が見られました。

本年度の図画工作科では，子どもたちが没入できる題材構成の工夫，新たな見方や感じ方を見いだしていくための対話の手立てや授業を改善していくための振り返りと教師の見取りの在り方について研究を進めていきます。

体育科

体育における「よりよい自分を追い求める姿」とは

磨田　慎太郎　／　是住　直人　／　西　沙織

１年トライアングルシュートゲーム（ボールゲーム）の学習において，「どうすれば強くボールを投げられるのか」という問いをもった子どもたち。問いの解決に向けて，どう体を動かせばよいかを試したり，友達とともに振り返ったりして，これまで獲得してきた見方・考え方を働かせながら，投げ方を更新していく姿が見られました。

本校体育科では，子どもたちが新たな動き方を試し，自分の体について分かり直していくプロセスを大切にしていきます。そのために，動きを試したくなるようなゲームを設定するとともに，子ども自ら振り返り，動きを変容させていく環境について研究を進めてまいります。

特別の教科・道徳

表現活動を通して，納得解を生みだす授業

山平　恵太

昨年度は，あたたかなつながりをテーマに「感謝」を多面的・多角的に捉えることができるよう，「家族愛，家庭生活の充実」「親切，思いやり」で単元型学習を行いました。子どもたちは，親切にされたときのことを思い出し，感謝の気持ちを伝えたり，それを行動に表したりしてみたいと道徳的価値を自分の生活とつなげて考えていました。

本校道徳科では，物事を多面的・多角的に捉え自己の生き方を深める姿を目指します。そのために，１時間の学びの中で価値について解決してみたいという思いや，考えてみたいと思う問いについて，役割演技やインタビューなどの表現活動を通して納得解を生みだす授業を提案します。

外国語活動・外国語

「人と分かり合うっておもしろい！」を実感する外国語学習

髙田　実里　／　北森　麻衣子

５年「ALT の家族に送る友だち紹介ビデオレター」では，『Jason 先生のお母さんに「日本でこんなすてきな人たちと過ごしているんだな」と，うれしい気持ちになってほしい。』と願い，コミュニケーションに臨んだ子どもたち。相手や目的を明確に意識する中で「この英語表現できちんと伝わるかな。」と立ち止まり，友だちと話し合いながら英語表現を考え直し，使っていこうとする姿が見られました。

本校外国語では，「分かり合いたい」という思いを高め，やりとりする必然性のある言語活動を中心に据えた授業を構想します。その中で自らの学びを見直しながら，人と分かり合えるおもしろさを実感する子どもの姿を目指します。

保健・健康教育

自他の行動のよさを健康づくりに生かす子どもを目指して

村上　朋美

健康であるための知識をもっていても，それを生活に生かし，よりよい健康行動につなげようとすることは容易ではありません。そこで，今まで何気なく行ってきた行動のよさに気づかせることで，自分の生活を見直し，健康に過ごしたいという意欲を高めることができると考えます。

本校の保健・健康教育では，自分の行動のよさに目を向け，行動と健康とを関連付けて考えるようにし，友達の行動のよさも取り入れながら，行動の改善や継続につなげられるようにしています。自分の心身の状態に関心を持ち続け，子どもが自ら必要な健康行動を選択，実践していくような保健教育の在り方を提案します。

栄養・食育

よりよい食生活のために試行錯誤を積み重ねる子どもを目指して

松尾　夕貴

朝食の学習を通して「食べるだけではなく，食事の内容が大切」だと気付いた子どもたち。しかし，理想の朝食を毎日摂ることは簡単ではありません。そこで「時間がない」「食欲がない」という現実とも向き合い，赤黄緑のそろった朝食を目指して自分にできる工夫を考え始めました。

本校の食育では，自分の食生活に立ち止まる場面を設定し，体験活動や他者との交流を通して，新たな視点を獲得させたり，課題解決方法を見いださせたりしていきます。そして，授業で獲得した新たな視点をきっかけとして，日常の中で自分にできることに目を向け，食生活をよりよくするために試行錯誤を積み重ねる子どもの姿を目指します。

※ QR コードから各教科紹介やブログ等を見ることができます。